

十勝川中流部市民協働会議_活動記録 (27)

十勝川十勝大橋上流右岸における「川まちづくり保全樹木」の現地確認

帯広市が進める総合体育館の周辺整備として、十勝川へアクセスし易く水辺に近付けるような環境整備「川まちづくり」が国交省から認定されました。それに伴う十勝大橋上流右岸の河畔林伐採計画に対し、当団体は帯広市が進める「川まちづくり」の協力・活動団体として現地確認の活動を、今年6月と11月の2回行いました。

今回は環境整備にも配慮した、保全樹木の選定を行いました。

- 日 時：平成30年11月16日（金） 13:30～15:00
- 参加者：十勝川中流部市民協働会議 6名（高倉、鏡、室瀬、紅葉、橋本、和田（真））
河川管理者：帯広開発建設部治水課 1名／帯広河川事務所 2名
帯広市スポーツ振興室：1名
- 活動内容：十勝大橋上流右岸の樹木について保全樹木のマーキング

●現地確認1回目（6月8日）

1回目の現地確認は、6月8日に行いました。現地確認に先立ち、十勝川インフォメーションセンターで確認場所の事前打ち合わせを行ってから現地に向かいました。



十勝川インフォメーションセンターで事前打ち合わせの様子

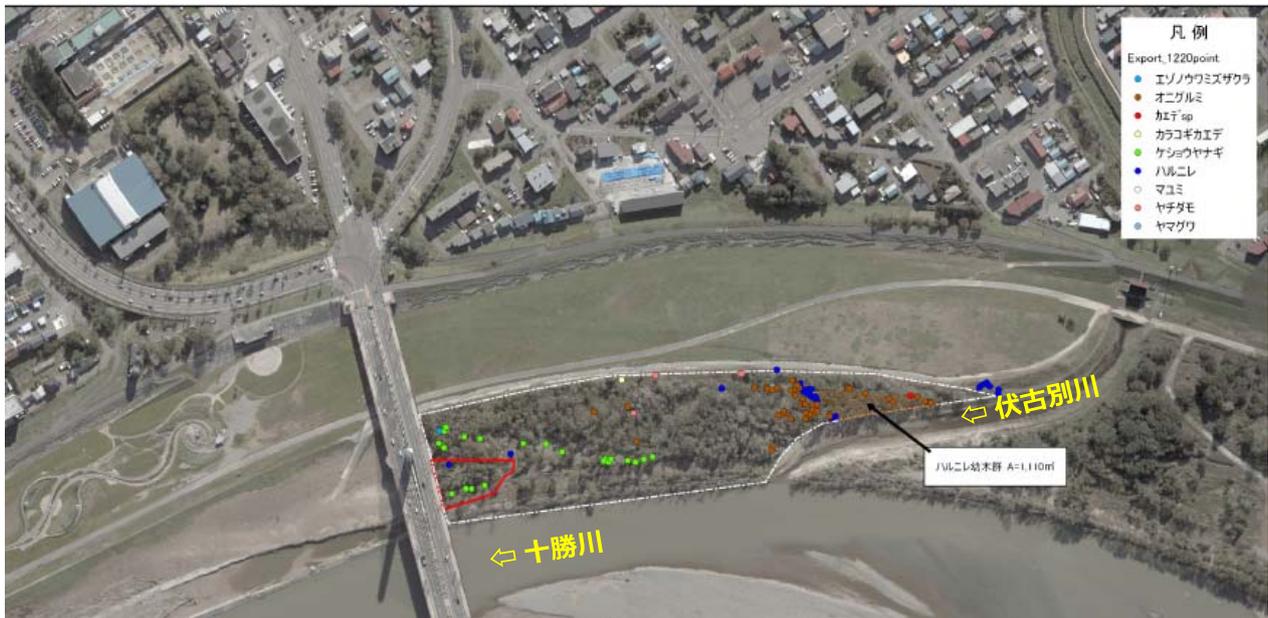


十勝川十勝大橋上流右岸の現地に向かう様子



現地の状況は、主にヤナギ林を中心に自生しており、その他として貴重種のケショウヤナギや持続性広葉樹が多少見受けられました。

現地確認の結果、主な樹木の自生ポイントを下の図に示します。



樹木の自生ポイント図



河畔林中で移動する様子



樹木名称を説明する室瀬氏



河畔林の中で現在位置を確認する様子



現地確認後、共通認識する参加者の様子

6月8日の1回目の現地確認では、伏古別川合流点の下流部の群落については、保全エリアとして共通認識を得ることが出来、その他の保全樹木については、もう少し視界が開けた状況で秋季に行くことで一致しました。

2回目の現地確認（11月16日）

2回目の現地確認は、伏古別川合流点の保全エリアから下流部について、貴重種のケショウヤナギや持続性広葉樹などの選定を行いました。



現地確認の事前ミーティング



現地で河畔林の状況を見る様子



現地で河畔林の状況を見る様子



保全樹木をマーキングする様子



保全樹木をマーキングする様子



保全樹木としたケショウヤナギ

現地確認の結果、保全対象樹木としては持続性広葉樹の他、シンボルツリーと成りそうな大木や生育が良いケショウヤナギやエゾヤナギ等を選定しました。



現地確認の結果、保全する樹木の箇所図